

以上のようにヒトクチャタケはマツの樹に生じるキノコであるから、県下でもいろんな所で見られると思う。種々の条件が異なれば集まる虫の顔ぶれも変わることが予想され、多いとか少ないとかキノコの状態、季節、時期、気温とかに着目して調べれば面白いと思われる。

参考文献

- 玉貫光一 (1930) ヒトクチャタケに寄生する昆虫類 (1) (とくにカブトゴミムシダマシについて), 昆虫 4(4):215-224.
- 飯田信三 (1938) ヒトクチャタケを繞る甲虫群, 昆虫界 6(56):768-772.
- 中根猛彦 (1948) ヒトクチャタケの甲虫類, 新昆虫 1(7):288-293.
- 久松定成 (1962) ヒトクチャタケをめぐる若干の甲虫類について, あげは (10):8-10.
- 林 長閑 (1986) 甲虫の生活. 築地書館.

訂正とお詫び

IRATSUME 11号に, 次のような誤りがありました. ここに謹んでお詫びをし, 訂正させていただきます.

○ P.14の下から7行目と8行目 広瀬 誠(誤) → 枝 重夫(正)

○ P.36の14行目

大きな収穫であた(誤) → 大きな収穫であった(正)

○ P.89の下から3行目

ホソツヤヒゲナガコガネ(誤) → ホソツヤヒガナガコバネ(正)